

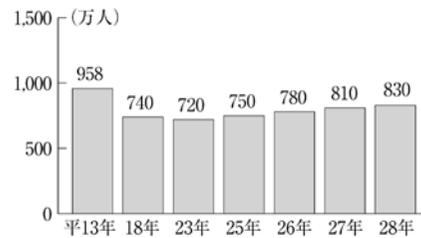
オートキャンプ場

最近の業界動向

●オートキャンプの参加人口は830万人

日本オートキャンプ協会「オートキャンプ白書2017」によると、平成28年の参加人口は前年比2.5%増の830万人となった。オートキャンプの活動は天候に大きく左右される。平成28年は北日本、東日本への台風の接近が前年より多く、特に北海道地方ではキャンプ場に被害が出た。一方、それ以外の地域では比較的天候に恵まれ、特に近畿、中国、四国では稼働率が伸びるなど好調だった。また、平成27年12月に国内初の「グランピングリゾート」がオープンし注目された。「グランピング」とは「グラマラス(魅力的な)」と「キャンプ」を合わせた造語で、テントやロッジに泊まりながらホテルのサービスが受けられるというものである。キャンプの道具や経験がなくてもアウトドアを楽しめることや、オシャレな雰囲気から注目され、キャンプ人口の拡大を後押しした。

オートキャンプ場の参加人口(推定値)



(出所)日本オートキャンプ協会

●「やすらぎの森オートキャンプ場」

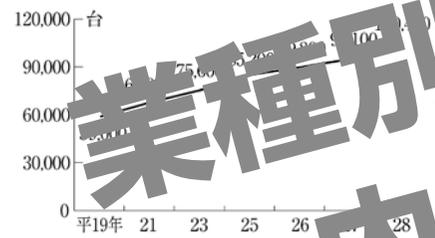
特定非常営利活動法人Nature Serviceが運営する「やすらぎの森オートキャンプ場」は、長野県信濃町にある。平成29年4月に、国内最大のキャンプ場検索・予約サイト「なっぷ」で、ゴールデンウィーク中のアクセスランキングが、長野県内にある182のキャンプ場中1位になった。夏休み中には、親子向け企画「夏休みの宿題は「生きもの

博士」と一緒に乗り切ろう」と、大人向け企画「森の中には秘密の「焚火BAR」が出現!」の企画を実施した。親子企画はキャンプ場の森などを活用して自然を体感しながら、スタッフが生きものの探検や昆虫標本づくりなどや、子ども達の質問などに答える。「やすらぎの森オートキャンプ場」は、ベットもOKで、隣接した森には散策路が整備されている。

●キャンピングカーの総保有台数

寝泊まりできるキャンピングカーは、時間や場所に縛られず、気ままに日本全国を旅できる魅力がある。旅行の同行者は夫婦二人が半数を占めている。キャンピングカーの販売業者でつくる日本RV協会によると、国内でのキャンピングカーの総保有台数(推計)の推移は次の通り。

キャンピングカーの総保有台数の推移



(出所)日本RV協会

マーケットデータ

●登山・キャンプ用品の市場規模

日本生産性本部「レジャー白書2017」によると、平成28年の登山・キャンプ用品の市場規模は前年比3.5%増の2,070億円であった。市場規模の推移は表の通り。

登山・キャンプ用品の市場規模(単位:億円)

年次	市場規模	年次	市場規模
平21年	1,610	平25年	1,890
22年	1,710	26年	1,950
23年	1,800	27年	2,000
24年	1,860	28年	2,070

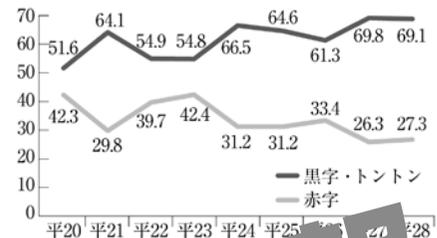
(出所)「レジャー白書2017」

●キャンプ場の収支状況

日本オートキャンプ協会「オートキャンプ白書2017」によると、オートキャンプ場の収支状況の推移は次の通り。平成28年は「黒字」と「収支トントン」と答えたキャンプ場が全体の69.1%、「赤

字」27.3%と好調を維持している。これは、近年のキャンプブームに加え、全国的に天候に恵まれたことが大きな要因と考えられる。

オートキャンプ場収支状況(単位:%)



(出所)日本オートキャンプ協会

●国産キャンピングカーの生産台数

日本生産性本部「レジャー白書2017」によると、平成28年の国産キャンピングカーの新車出荷台数は4,868台で、前年度の9,000台に比べて2.0%の減少であった。

国産キャンピングカーの生産台数(単位:台)

年次	生産台数
平26年	4,434
平27年	4,968
平28年	4,868

業界の特性

●キャンプ場数

日本オートキャンプ協会の資料によると、平成28年のオートキャンプ場数は1,299カ所となっている。都道府県別では北海道を除いて、山梨県や長野県、静岡県など首都圏の周辺に多い。

●延べキャンプ回数とキャンプ泊数

日本オートキャンプ協会の資料によると、平成28年のキャンプに行った回数は平均3.3回(前年3.5回)に留まった。また、平成28年の延べキャンプ泊数は平均4.7泊で、前年の5.2回と比較し0.5泊下回った。なお、「平均1~2泊」が42.1%を占め、ビギナーに多い1~2泊の増加により平均泊数が減少している。

●需要期

キャンプは春から秋がシーズンであり、冬場は閉鎖するキャンプ場が多い。曜日別では平日に比べて休日の利用が圧倒的に多い。ゴールデンウィークや夏休みなどのシーズン期には予約が埋まるキャンプ場も多い。

ノウハウ

●「グランピング」専用の施設が相次いでオープン

ロッジや大型テントに泊まりながら高級ホテル並みのサービスが受けられる「グランピング」が話題となり、グランピング専用の施設も相次いでオープンしている。また、閉鎖したオートキャンプ場がグランピングスタイルの施設としてリニューアルオープンするなど、新たなキャンプ場が広がっている。新しくキャンプを始める人も増えており、参加しなくなるイベントや楽しい企画などでアピールしていく必要がある。

経営指標

オートキャンプ場を対象にした指標は見当たらないので、ここでは参考として、TKC経営指標(平成29年版)より、「他に分類されない娯楽業」の数値を掲げる。

TKC経営指標 (変動損益計算書)	全企業 70件	
	平均額(千円)	前年比(%)
売上高	135,687	98.0
変動費	57,615	91.0
仕入高	55,377	90.9
外注加工費	2,484	106.3
その他の変動費	56	54.4
限界利益	78,072	103.8
固定費	77,780	104.3
人件費	40,120	104.3
減価償却費	4,807	127.1
租税公課	1,466	102.7
地代家賃・賃借料	5,374	102.3
支払利息・割引料	800	97.0
その他	25,210	101.5
経常利益	292	46.9
平均従業員数	134名	

今後の課題/将来性

●将来性

オートキャンプ場の参加人口は、ここ数年増加傾向にある。増加するインバウンド需要も期待できるが、キャンプ用品のレンタルやWi-Fiの充実などが不可欠だ。夏休み中のイベント企画などは好評で、今後も市場拡大が期待される。

【関連団体】一般社団法人日本オートキャンプ協会

東京都新宿区三栄町12 清重ビル2F

TEL 03 (3357) 2851